

「日本橋川今昔(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

昭和31年には、水面から完全に空が見えていた日本橋川。しかし、現在は日本橋の上に立って見上げても、見えるのは首都高速高架線の橋げたの下面だけである。風情も何もない。日本橋川がその後どんな運命をたどったのか・・・やはり年代別の航空写真を見るのが一番理解しやすい。

下図は1963年(昭和38年)の、日本橋川下流部の航空写真である(国土地理院提供、田中加筆)。この時代は、東京オリンピック直前で、東京は道路や建物の建設ラッシュだった。日本橋川も、その姿を少しずつ変え、首都高速の触手に浸食されつつある。

下の写真を見ると、常盤橋(上流側)から江戸橋にかけて、首都高速の工事が始まっている様子が写っている。分流の楓川も、河床そのものが中央環状線の道路敷になり、川の姿は完全に消滅している。



上は日本橋付近の拡大写真である。それまで空が見えていた日本橋にも、首都高速の高架線の基礎が覆いかぶさってきている。面白いのは、中央通りに都電の軌道が残っていることだ。よく見ると、三越の脇に都電の車両も写っている(←)。この時、都電の乗客は、どんな気持ちで日本橋を渡ったのだろうか？

